

(様式 2)

京丹後市議会議長 様



平成 30 年 2 月 20 日

会派名 政 友 会
代表者氏名 由 利 敏 雄

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 日 程 平成 30 年 1 月 31 日 (水)・2 月 1 日 (木)・2 月 2 日 (金)

2 場 所 ◇輪島市役所

石川県輪島市二ツ屋 2-29 番地 (☎ 0768-22-2211)

◇近江市場

石川県金沢市上近江町 50 番地

◇金沢市役所

石川県金沢市広坂 1 丁目 1 番地 1 号 (☎ 076-220-2193)

3 目 的

- (1) 持続的な地域をつくる「地方創生」。なかでも、高齢者が元気なうちに入居して社会活動に参加しながら生活し、介護・医療が必要になればケアが受けられる「生涯活躍のまちづくり」について調査・研究をすることで、高齢化や空き家増加等の課題への対応に生かす。
- (2) 本市の重要な施策である美食観光をより推進するために、美食観光に関する国内の先進事例（金沢の食文化の継承及び振興に関する条例）を調査・研究することで、本市の取組みをより一層進める。また、美食観光の一環として、市民の台所だけでなく金沢市の観光名所になっている「近江市場」も見学し、地域振興に生かす。

4 該当する政務活動費の使途項目

調査研究費

5 支出経費の内訳と金額

82,096 円

内訳は別紙

6 参加議員名

由利敏雄、藤田 太、和田正幸、水野孝典 以上 4 名

7 調査研究成果の概要、所見

下記のとおり

8 成果物、資料等 別添のとおり

(別紙)

『輪島市版生涯活躍のまちづくりプロジェクト』の調査及び研修の概要

視察地 ◇輪島市役所

石川県輪島市二ツ屋 2-29 番地 (☎ 0768-22-2211)

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典

I 輪島市の概要

輪島市は能登半島の北端に位置する人口 27,835 人

(平成 29 年 4 月 1 日現在) のまちである。平成

18 年 2 月 1 日に門前町と対等合併して人口は、

34,750 人となったが、その後の 11 年間に人口

は 6,915 人も減少している。また高齢者比率も

50% 近く、移住定住対策や空き家対策等により

人口減少を食い止めることが大きな行政課題で

ある。また、地場産業である漆器や農業などの

産業も衰退が著しく、朝市などの観光資源を活

かしながら、市街地の賑わいを取り戻すなど、総合的にまち全体の振興と活性化を図

る取り組みが模索されている。さらに、合併算定替えの段階的縮減による地方交付税

の減少や、人口減少による市税収入の縮小など財政面においても課題がある。



II 視察内容

1 「新交通システムでつなぐ漆の里・生涯活躍のまちプロジェクト」の具体的な取り組み

輪島市では国の「まち・ひと・しごと」の創生に準拠して、平成 27 年 10 月に市の総

合戦略を策定。2040 年に人口 25,000 人以上を維持するため、4 項目にわたる重点施策を

展開し、その中で CCRC (生涯活躍のまち) の導入を模索している。その重点施策は以

下の 4 つである。

(1) 輪島の魅力を活かした雇用の創出

観光産業、漆器産業、農林水産業などとの連携創出と支援

(2) 住みたくなるまちづくり

移住定住の促進 (生涯活躍のまち (CCRC) の導入) や選ばれる地域ブランドづくり

(3) 結婚・子育ての希望をかなえる環境づくり

出会いの創出や結婚生活支援、子育ての環境づくりなど

(4) 自然と暮らしを守るまちづくり

里山里海環境の保全、公共交通維持、まちづくりの整備、元気に暮らせる環境づくり

など

2 「生涯活躍のまちづくり」導入への懸念と佛子園との連携

(1) 輪島市では生涯活躍のまちづくりを進める上での懸念事項として、人口が増加して

も高齢者のみが多くなりはいしないか、移住者のサポートの担い手の確保はどうするか、

空き家や空き地が増加しつつあっても、住宅が密集しているためアパートなどの借家は借地率が高く、移住者が住みやすい環境ではないこと、また他の自治体と比較して移住者政策に魅力がなければ移住者が集まらない。

- (2) 社会福祉法人佛子園は、石川県白山市を本拠地として、能登町、小松市、美川町、金沢市などで生涯活躍のまちづくりを展開している。輪島市ではこの社会福祉法人の取り組みに着目し、地域課題の解決を図り、生涯活躍のまちづくりを進めるため連携している。

(3) 佛子園からの提案

佛子園の理事長は、青年海外協力協会（JOCA）の会長である。

《提案 1》 青年海外協力協会（JOCA）による人口減少対策としては、一般移住者の誘致に先駆けて青年海外協力協会（JOCA）員の移住を実現する。

《提案 2》 「健康」「子育て」「地域コミュニティ」機能の追加による賑わい創出では、中心市街地に、生涯活躍のまちの拠点機能と賑わい創出のため、温浴施設や飲食施設を設置し、①ウエルネス施設の設置、②ママ図書・空き家まるごと遊具の設置、③自治機能の設置、を実現する。

《提案 3》 地域資源の活用では、①輪島商工会議所が観光客向けに導入する電動カートでタウン間をつなぐ福祉車両としても併用する、②伝統産業である漆を活用し、公的な漆会館と民間の漆器施設を連携させて周遊性を高める。

《提案 4》 観光力の強化では、①青年海外協力協会員の移住により協会とのネットワークを構築し、海外からも若者を迎え入れるなど国際交流の推進を図る、②タウン型生涯活躍のまちづくりとして全国からの注目を集め、魅力を発信する。

《提案 5》 その他地域づくりに関する提案では、①市民農園・牧場・ドッグランの設置、②市の整備した CATV 網を活用した「のらんけバス」「電動カート」の移動把握システムや観光客周遊分析など、双方向の情報や新交通システム、③シェアリング認証システム、④配食サービスなど。

3 輪島市が「生涯活躍のまちづくり」でめざす事業効果

(1) 移住者・雇用者想定数

ア 移住者数

青年海外協力隊経験者とその家族	30 名以上
高齢者	30 名以上
その他	40 人以上

イ 雇用者数

正規職員	30 名以上
パートタイマー	80 名以上
障がい者	50 名以上



(2) 交流人口数

施設利用者数（交流関係施設）

利用者 50,000 人以上/年

福祉関係者 50,000 人以上/年

(3) 波及効果

ア 事業賛同による事業者の移住希望（スペイン料理、ボディケア店等）

イ 視察者増加による飲食や宿泊の経済効果（全国自治体や福祉関係者、JICA 連携の海外学生視察）

ウ 市街地の賑わい創出、国内外からの移住希望者、COC+による学生参画

4 輪島市の空き家の現状と対策、及び移住・定住支援、子育て支援策

(1) 空き家データベース

平成 16 年度から運用を開始。輪島市への移住定住を促進するため売買や賃貸したい空き家の活用を図る。登録累計は 172 件、現在登録件数 38 件、成約累計 76 件。

(2) 移住定住促進奨励金

30 万円（同日転入の配偶者・子がある場合、2 人目 20 万円、3 人目から 1 人あたり 10 万円を加算）

移住定住奨励金 経年実績（平成 29.12.31）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	累計
Uターン	42	50	37	34	5	5	173
Iターン	15	23	25	22	26	24	135
累計	57	73	62	56	31	29	308

(3) 住宅賃借支援

家賃の 2 分の 1（上限 1 ヶ月 2 万円。12 か月支援）交付実績は、平成 28 年度 8 件、29 年度 14 件。

(4) 住宅確保支援

新築＝購入価格の 10 分の 1（上限 70 万円、地元産材使用で 30 万円加算）

中古＝購入価格の 10 分の 1（上限 50 万円、地元産材使用で 10 万円加算。増築した場合のみ）

改修＝改修費用の 2 分の 1（上限 50 万円、空き家データベース登録住宅）交付実績は平成 28 年度 1 件。

(5) 移住促進住宅

世帯ルーム（U・Iターン者向け）は、3DK で 6 戸、シェアルーム（Iターン者、輪島漆芸技術研修所研修生向け）は、各戸 3 部屋、共同キッチン、風呂、トイレ付は 6 戸、移住体験ルーム（移住希望者向け）は 3DK で 1 戸。実績は世帯ルーム 5 戸入居済み、シェアルームは 6 戸（3 人 2 戸、2 人 3 戸、1 人 1 戸）体験ルームは 1 人。

(6) 起業・新規出店支援事業（最大 360 万円）

支援対象者は、市内金融機関から 3 年以上の融資を受け、市内で小売店、飲食店、宿泊施設、製造業などを起業する人で、店舗の開設費用支援として上限額 300 万円、借入金の利息支援として上限額は 1 年間 20 万円で開業から 3 年以内。建設費、改修費、備品購入費、備品リース料、開業当初の消耗品費、広告宣伝費などが対象となる。交付実績は、平成 26 年度 4 件、27 年度 5 件、28 年度 10 件、29 年度 9 件。

(7) 子どもの医療費助成

0 歳児から高校生の入院・通院費用（保険適用分）を全額助成。県内医療機関等は窓口無料、それ以外の医療機関は児童償還払い。

(8) 第 3 子の保育料無料

保護者と生計を一にする場合は、上の子の年齢に関係なく、3 人目以降の保育料は無料。2 人目は半額。

(9) 子宝支援事業

ア 一般不妊治療 保健適用分は 2 分の 1（上限年 5 万円）＋保険適用外：対象経費 70%以内（上限 70 万円）

イ 特定不妊治療 保険適用分は 2 分の 1（上限年 5 万円）＋保険適用外：対象経費 80%以内（上限年 100 万円）

ウ 不育症治療助成 保険適用分は 2 分の 1（上限年 5 万円）＋保険適用外：対象経費 70%以内（上限年 30 万円）

Ⅲ 視察所見

朝市や漆芸、切籠（切子灯籠）でよく知られた輪島市であるが、過疎化と高齢化、人口の急激な減少はここでも例外ではない。同市では起死回生をかけ、生涯活躍のまちづくりと子育て支援策を両輪として、市を挙げた取り組みが進みつつある。なかでも特筆すべきは、青年海外協力協会と強いきずなをもつ社会福祉法人佛子園との連携である。市のトップ、商工会議所、佛子園ががっぷり組み、市の政策課題の解決に当たっている。他所の真似事でなく、比類なき地方創生の取り組みが京丹後市でも求められる。

近江市場の施設見学の概要

視察地 近江市場

石川県金沢市上近江町 50 番地

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典

視察内容

I 視察の背景（目的）

金沢の食文化の継承及び振興に関する条例が平成 25 年 10 月 1 日に施行されたことにより、食材の一つの拠点である近江市場の施設見学を行う。

II 施設の概要

加賀百万石の台所として知られる「近江市場」の始まりは、1721 年以来、約 300 年金沢の食文化を支え、「市民の台所」として親しまれてきた。

場所は金沢市の中心部にあり、主に生鮮食品などの食品と生活雑貨を扱う小売店が主体である。狭い敷地に 170 店舗あまりが立ち並び、鮮魚、青果、精肉、かまぼこ、乾物、塩干、漬物、酒、駄菓子、惣菜、花、せともの、洋品雑貨、など様々なものが販売されている。

お土産に生ものを購入したいという方には、氷詰めをしてくれるサービスもあり、常に活気のある市場として観光客からの人気もある。

また、平成 21 年 4 月に「近江町いちば館」が誕生し、日曜日の営業も始まり新たな賑わいも見せている。

III 視察所見

金沢市の人口は、本市の人口の 8 倍を有しており、一概に比較することはできない。本市において唯一の「日本一短いアーケード」をうたい文句にしていた「御旅市場」も現在は、殆ど閉鎖状態になり、市場と名の付く商店街はなくなった。本市の魚介類は漁場も近く、新鮮で種類も豊富であり、近江市場になんらひけをとるものではない。そこで、一考ではあるが、現在丹後市民局は海も近いという条件がある中で、1 階部分を鮮魚中心の市場にする。市民局を活用することにより、隣接する「てんきてんき村」や山陰海岸ジオパークに認定されている美しい海岸線との相乗効果が図られ、誘客に繋がると考える。本市に点在する観光施設を点から線にするためにも、大胆な発想に期待する。

『金沢の食文化の継承及び振興に関する条例』の調査及び研修の概要

視察地 ◇金沢市役所

石川県金沢市広坂1丁目1番地1号 (☎ 076-220-2193)

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典

視察内容

I 金沢市の概要

金沢市は本州のほぼ中心に位置し、明治22年(1889年)の市制施行依頼、近隣町村との度重なる編入・合併によって市域を拡大し、平成8年(1996年)には中核市に移行した。面積は、468.64 km²、人口は465,188人(平成28年4月1日現在)です。

日本海側気候で「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるくらい雨の多い地域です。春や夏は好天の日が多い反面、冬は曇りや雨の日が多く、積雪もある。雪化粧した兼六園や長町武家屋敷跡などの風情は、金沢ならのものであります。また、高い湿度は伝統工芸である漆塗りや金箔製造に適しています。

市内には山も海もあり、自然にとっても恵まれています。清らかな 犀川や浅野川その他、わき水も多く、水が豊かな町であり、「用水のまち」としても有名であります。一方で県庁所在地として交通網や商工業も発展しており、北陸有数の都市として高い利便性も持ち合わせています。



II 『金沢の食文化の継承及び振興に関する条例』と具体的な取り組み

1 条例制定の背景

京都市の乾杯条例を参考(契機)に金沢の食をアピールすることを目的に、市民の意識も高めるため、市民を中心に据えた条例を制定されています。食べるものだけでなく、料亭での食文化、生活の中の食文化、じわもん(家庭での昔からの料理)、さらには器も含め、和室をつくりお花やお茶、お菓子や掛け軸に、そして和服にもつなげるなど金沢市民すべてに広げたいとの強い思いがあったとのことでした。

2 条例の趣旨(パンフレットより)

この条例は、金沢の食文化の継承及び振興を図るための事項を定めることにより、金沢の食文化の持続的な発展に寄与することを目的とする条例です。「金沢の食文化」とは、金沢の食及びこれに係る調理法、食器、作法、しつらえ、料亭等に関する金沢固有の文化のことです。「金沢の食」とは、加賀野菜その他の農作物、海産物等の食材、清酒、茶、菓子及び調味料で本市において生産、加工等をされたもの並びにこれらを利用した加賀料理、じわもん(地物)料理等の料理のことです。

(1) 金沢の食文化の奨励

「郷土の清酒等での乾杯、金沢の食を味わうなど、金沢の食文化を普及させましょう」

(2) 市民の皆様へ

「金沢の食文化について理解と関心を深めましょう。金沢の食を味わいましょう」

(3) 事業者の方々へ

「金沢の食文化についての知識や技術などの継承と向上発展に取り組みましょう」

3 金沢の農産物と水産物

(1) 金沢の伝統野菜「加賀野菜」

昭和 20 年以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培され、流通体制の整っている 15 品目を「加賀野菜」として認定している。(金時草、加賀れんこん、加賀太きゅうり、加賀つるまめ、ヘタ紫なす、打木赤皮甘栗かぼちゃ 等) 加賀野菜の PR としては、加賀野菜イメージキャラクター「ベジタン」、生産者と児童・生徒との地産地消の話と給食の提供、首都圏での試食販売と、飲食店連携・銀座の金沢での料理提供をしている。

(2) 新鮮な海の幸

目の前に日本海が広がり、暖流と寒流がぶつかる好漁場で、春は真鯛、サヨリ、バイ貝、ハタハタ、夏はいか、イワシ、アジ、鮎、秋は甘エビ、のどくろ、サンマ、サバ、冬は加能がに、香箱がに、ぶり、ゲンゲなど新鮮な海の幸がある。海の幸の PR としては、海の幸の魅力を全国に発信、金沢の魚のおいしさを熱く語る懇話会を開催している。

4 職人の技術・技能等の向上と継承

伝統の加賀料理を中心に、和食や中華、洋食など、金沢特産の食材を使用した料理を研究している。

(1) 金沢料理人塾

卓越した技能を持つ料理職人が講師となり、若手料理人に技術を伝授している。年間 21 回開催している。

(2) 菓子名工賞・料理名工賞・バーテンダー名工賞

食文化の振興発展を目的に、食文化を担う菓子づくりや料理等の技能向上に多大な貢献のあった方を表彰している。平成 7 年度から現在まで 78 人の方を表彰している。

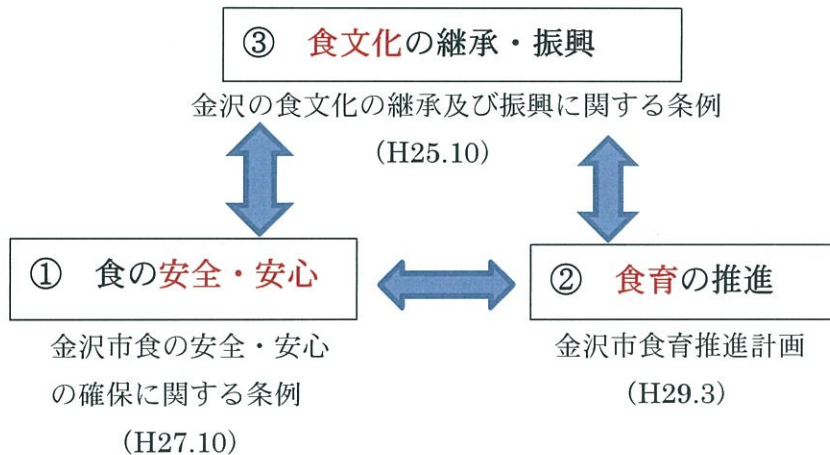
(3) 料理人等海外派遣・受入の支援

世界に通用する料理人を育成・世界の料理人との相互交流を目的とし、対象は料理人、菓子職人、バーテンダー等(金沢の食文化推進委員会の推薦必要)で、補助率は 1/2、限度額 10 万円/年・団体(最長 3 年間)、実績としては、石川県洋菓子協会のベルギー派遣、金沢芽生会のニューヨーク派遣、金沢市料理組合のニ

ューヨーク派遣などである。

5 具体的な取り組み

食の3つの柱



(1) 食の安全・安心

ア 安全を確保する方策

- ・安全な農産物等の生産・供給
- ・製造・加工、流通、販売施設の衛生管理
- ・食品などの検査
- ・食品表示の適正化

イ 安心を確保する方策

- ・食に関する情報収集・提供の適正化
- ・相談窓口の対応強化
- ・食育の取り組みで安全情報の提供



(2) 食育の推進

ア 食の正しい知識・判断力を身につけた市民を育てる

イ 健全な食生活を習得し実践できる市民を育てる（一汁三菜）

ウ 地物食材を食べて健康寿命を延ばす（身土不二・旬産旬消）

(3) 食文化の継承・振興

- ア 「金沢の食文化推進委員会」の発足
食文化関係の36の団体が、食文化
の情報発信・イベントの開催や、
技術・技能の向上、後継者の育成
等について、官民連携し取り組む。

イ 市民啓発

○金沢食文化フェスタ（H29.10.7～9）

- ・「食×IoT×若手人材育成」シンポジウム
- ・名工賞表彰式

【主要団体】

- ・金沢市料理業組合・金沢芽生・石川県酒造組合連合会・石川県菓子工業組合・金沢クラフトビジネス創造機構・金沢工芸普及推進協会・金沢農産物ブランド協会など

市役所内に
【金沢の食文化推進本部】
設置
(H26.2.24)

- ・名工の技の披露・伝授 ・和菓子づくり体験 ・食文化ブースの出展 など

○近江町市場や中央卸市場

- ・季刊誌「お！のある暮らし」配布 ・親子料理教室の開催
- ・季節ごと旬のお魚レシピ配布 ・農水産物を使ったおせち料理発信
- ・近江町複合商業施設（H32 開設）キッチンスタジオの活用 など

ウ 三大都市圏や市内での情報発信

○dining gallery「銀座の金沢」（H26 年 10 月開設）

- ・金沢のヒト、モノ、コトとの交流 ・様々な金沢の体験の場

○観光誘客プロモーション

- ・旅行者に商品造成の働きかけ「おいしい！冬の金沢キャンペーン」等
- ・有力旅行雑誌やネット媒体を活用した情報発信の強化

○イベント用 PR グッズの無料貸し出し

- ・法被、のぼり旗、タペストリー、DVD 等

○都内ホテルや交流都市（板橋・目黒区）で PR

エ 海外への情報発信

○「ほんものの金沢」欧州重点プロモーション

イタリアを重点市場に、スペイン、フランスの 3 カ国で金沢の食文化などの魅力を発信

- ・かなざわ講座の開催 ・金沢のイメージ空間に装飾（ローマ、ミラノ、マドリッド、パリ）

Ⅲ 視察所見

金沢市は、北陸新幹線というアクセス向上を契機に、「金沢の食文化の継承及び振興に関する条例」を施行し、シンボルマーク等の作成、民間事業者の取り組みに係る補助制度（金沢の食文化推進事業補助制度）の創設、海外での料理人等の技術・技能の向上にかかる活動及び食文化の普及活動（料理人等海外派遣支援事業）、さらには観光部局において食をテーマとしたイベントや観光キャンペーンを行うなど、関係団体が連携し食をテーマに地域の振興に取り組んでいる。また、条例が施行されたことを契機として、「金沢の食文化の魅力発信行動計画」を策定し、食文化の魅力を積極的、効果的に内外に発信するため、庁内連携組織を立ち上げ、全庁を上げて食文化の推進に取り組んでいる。

本市においても、農産物や海の幸、じわもの等金沢に劣らないような豊かな食材や伝統があるが、美食観光に対する施策、市民や民間業者の食に対する認識に違いがあり、市の強い姿勢と地域や関係団体との連携が不可欠であると痛感した。

政友会 調査研究視察 行程表

京丹後市議会 政友会

日	行 程
1月31日(水)	京丹後市 → 輪島市内(宿泊)
2月1日(木)	輪島市内 → 9:30 輪島市役所(視察) 11:30 → 16:00 金沢市近江町市場(視察) 17:30 → 18:00 金沢市内(宿泊)
2月2日(金)	金沢市内 → 9:30 金沢市役所(視察) 11:30 → 12:00 金沢市近江町市場(昼食) 13:30 → 京丹後市

移動は全行程議員自家用車(1台)

別紙

北陸（石川県）視察支出経費内訳

視察日 2月1日・2日

○宿泊代 61,000 円

ルートイン輪島（1泊食事無）33,800 円（1月31日 1人 8,450 円）

ルートイン金沢駅前（1泊食事無）27,200 円（2月1日 1人 6,800 円）

○業者取扱手数料 2,160 円

○ガソリン代 7,106 円

○高速道路通行料金 11,830 円（別紙行程を参照）

料金所 6,020 円（大宮 IC～金沢森本 IC）

料金所 5,810 円（金沢西 IC～大宮 IC）

合計 82,096 円